

このマーク（複十字）は、
世界共通の結核予防運動の
旗印です。

No.
357

2014.7

結核・肺疾患予防のための 複十字

本誌は複十字シール募金の収益により作られています <http://www.jatahg.org/>



目的はひとつ 結核のない明日をつくるために

運動期間

8/1 ▶ 12/31

運動期間外も受け付けています。



シールぼうや

複十字
シール運動

公益財団法人結核予防会



健康日本21

第54回 日本呼吸器学会学術講演会 出展報告

今回で第54回となる呼吸器学会は、平成26年4月25日（金）～27日（日）大阪国際会議場及びリーガロイヤルホテル大阪を会場として行われました。参加者数は約6,200名を数え、大変盛況となりました。

学会会期中には、多くのシンポジウムやランチョン・イブニングセミナーが開催され、座長や演者を務められた当会の先生方をはじめ、多くの参加者がブースに立ち寄られました。

当会出展ブースでは、予防会各種ポスターやCOPD啓発冊子、COPD共同研究事業報告書を用意しましたが、予想を上回る希望者で、追加した資料もあっという間になくなりました。次回は来年東京



立ち寄られた複十字病院工藤院長

国際フォーラムにて開催予定です。

（文責：普及広報課）



当会出展ブース

第6回 喀痰誘発研究会 in 大阪大学中之島センター

去る4月25日～27日、大阪国際会議場で開催された第54回呼吸器学会総会の初日の夜、今年で第6回となる喀痰誘発研究会が開催されました。

喀痰誘発研究会は、2009年に発足した研究会で、結核の診断において、特に重要なプロセスである喀痰検査のための喀痰採取における新しい方法について研究を進め、啓蒙を行っています。

今年度は、学会会場近隣の大阪大学中之島センターの一室で開催されました。

会長の後藤元先生（複十字病院院長補佐）による開会の辞からはじまり、全国6施設で行われ、昨年末症例登録が完了した研究会主導の臨床研究「誘発喀痰の結核菌検査に関するラングフルート法と高張食塩水吸入法のクロスオーバー試験」の経過報告等が行われました。この研究の成果は、今後各種学会にて発表予定となっているようです。

さらに特筆すべきは、一昨年公開されたWHO（世界保健機構）の「低リソース環境のための革新的な医療機器およびeヘルスソリューションズの綱要」内で、ラングフルートが取り上げられたことが報告されたことでした。

また、アメリカメリーランド大学医学部において、「肺がんの細胞分析の喀痰検体におけるラングフルートの有用性評価」が行われ、ラングフルートによる

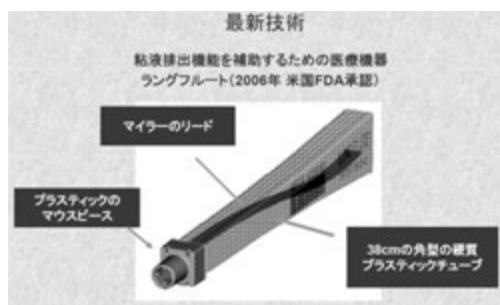
肺がん細胞診の為の喀痰検体採取が大変有効であることが学術誌に掲載されたことも合わせて報告されました。

今後も、より良質な喀痰の必要性、その採取法の啓蒙に力を入れていくとの認識を新たにして、会は盛況なまま閉会しました。（（株）アコースティックイノベーションズ；相馬一平）

今回で2回目の参加となりました。医師の方だけでなく、検査技師や保健師などの職種も参加しています。

お土産にいただきましたラングフルートは図のような硬いプラスチックです。これをもっと簡単に、例えば紙で組み立てて用いることができれば、と研究が進められています。簡易なラングフルートに近い将来登場すれば、費用も安価になり、もっと身近に使用できるのでと期待が高まりました。さらに、今後発展にむけて、感染管理認定看護師にもこの会を普及していきたいと思います。

喀痰誘発研究会HP：<http://sirg-j.org>



研究会出席者

前列左端Hawkins氏（ラングフルート発明者）、2人目後藤会長、後列左より2人目筆者

（結核研究所対策支援部保健看護学科：永田容子）